

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成28年2月25日(2016.2.25)

【公表番号】特表2014-505655(P2014-505655A)

【公表日】平成26年3月6日(2014.3.6)

【年通号数】公開・登録公報2014-012

【出願番号】特願2013-530433(P2013-530433)

【国際特許分類】

C 0 7 K 14/435 (2006.01)  
 C 1 2 N 15/09 (2006.01)  
 C 0 7 K 5/10 (2006.01)  
 C 0 7 K 7/00 (2006.01)  
 C 0 7 K 19/00 (2006.01)  
 A 6 1 K 38/00 (2006.01)  
 A 6 1 P 25/00 (2006.01)  
 A 6 1 P 25/08 (2006.01)  
 A 6 1 P 25/22 (2006.01)  
 A 6 1 P 25/28 (2006.01)  
 A 6 1 P 25/04 (2006.01)  
 A 6 1 P 35/00 (2006.01)  
 A 6 1 K 38/04 (2006.01)  
 A 6 1 P 9/00 (2006.01)  
 G 0 1 N 33/15 (2006.01)  
 G 0 1 N 33/50 (2006.01)  
 C 1 2 N 9/02 (2006.01)  
 C 1 2 Q 1/48 (2006.01)  
 C 1 2 Q 1/32 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 K 14/435 Z N A  
 C 1 2 N 15/00 A  
 C 0 7 K 5/10  
 C 0 7 K 7/00  
 C 0 7 K 19/00  
 A 6 1 K 37/02  
 A 6 1 P 25/00  
 A 6 1 P 25/08  
 A 6 1 P 25/22  
 A 6 1 P 25/28  
 A 6 1 P 25/04  
 A 6 1 P 35/00  
 A 6 1 K 37/43  
 A 6 1 P 9/00  
 G 0 1 N 33/15 Z  
 G 0 1 N 33/50 Z  
 C 1 2 N 9/02  
 C 1 2 Q 1/48 Z  
 C 1 2 Q 1/32

【誤訳訂正書】

【提出日】平成27年12月28日(2015.12.28)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

配列番号60の残基310～321を含む配列番号60の残基と同一の20個以下の残基を有することを特徴とするND2ペプチドであって、

前記ペプチドは、ND2のSrcとの相互作用を阻害する、ND2ペプチド。

【請求項2】

ND2 307～321(配列番号22)またはND2(配列番号23)である、請求項1に記載のND2ペプチド。

【請求項3】

前記ND2ペプチドは、myr-ND2(配列番号33)又はmyr-ND2(配列番号32)である、請求項1に記載のND2ペプチド。

【請求項4】

配列番号60のアミノ酸310～321から成るアミノ酸配列を有することを特徴とする、請求項1に記載のND2ペプチド。

【請求項5】

脂質付加されていることを特徴とする請求項1～4のいずれか1項に記載のND2ペプチド。

【請求項6】

内在化ペプチドに結合されていることを特徴とする請求項1～4のいずれか1項に記載のND2ペプチド。

【請求項7】

前記ND2ペプチドは、キメラペプチドとして、内在化ペプチドに結合しており、前記キメラペプチドは、長さがアミノ酸50個までであることを特徴とする請求項6に記載のND2ペプチド。

【請求項8】

前記キメラペプチドは、長さがアミノ酸25個までであることを特徴とする請求項7に記載のキメラペプチド。

【請求項9】

神経疾患または神経障害の治療または有効な予防に用いるための、請求項1から8のいずれかに記載のND2ペプチド又はキメラペプチドを有する医薬組成物。

【請求項10】

前記神経疾患または前記神経障害は、脳卒中、CNSへの外傷、てんかん、不安神経症または神経変性疾患であることを特徴とする請求項9に記載の医薬組成物。

【請求項11】

疼痛の治療または有効な予防に用いるための、請求項1から8のいずれかに記載のND2ペプチド又はキメラペプチドを有する医薬組成物。

【請求項12】

癌の治療または有効な予防に用いるための、請求項1から8のいずれかに記載のND2ペプチド又はキメラペプチドを有する医薬組成物。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0046

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

## 【 0 0 4 6 】

T a t (またはT A Tもしくはt a t) ペプチドとは、G R K K R R Q R R R (配列番号60)を含むかまたはそれから成るペプチドであって、その配列内で5個以下の残基が削除、置換、または挿入されていてもよく、結合ペプチドまたは他の薬剤の細胞内への取り込みを促進する能力を保持しているペプチドを意味する。好ましくは、いかなるアミノ酸変化も保存的置換である。好ましくは、集合体におけるいかなる置換、削除または内部挿入も、正味の正電荷、好ましくは上記配列のものに類似した正電荷を、ペプチドに残す。T a t ペプチドのアミノ酸配列は、ビオチンまたは類似の分子で誘導体化して炎症応答を低減することが可能である。

## 【 誤訳訂正 3 】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 5 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

## 【 0 0 5 6 】

N D 2 ペプチドには、配列番号60に関連しない隣接アミノ酸、たとえば内在化ペプチド(以下に説明するように、膜貫通を促進し、ビオチンまたはG S Tなどのタグとして、精製、同定またはスクリーニングにおいて援助するペプチド)を結合することができる。アミノ酸の関連しない隣接配列を除き、配列番号60とは異なるN D 2 ペプチド内のあらゆるアミノ酸は、好ましくは、配列番号60の対応残基に対して保存的置換である。配列番号60とは異なる配列を有する(関連しない隣接配列を含まない)N D 2 ペプチドは、好ましくは、配列番号60に対して、6個以下、5個以下、4個以下、3個以下、2個以下または1個の削除、挿入または置換を有する。N D 2 ペプチドは、好ましくは、合計で40, 30, 20, 15または12個以下のアミノ酸を有する(内在化ペプチドなどの関連しない隣接配列を含まない)。

## 【 誤訳訂正 4 】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 8 0

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

## 【 0 0 8 0 】

ペプチド、随意的にT a t ペプチドに融合したペプチドは、固相合成または組み換え法によって合成することが可能である。ペプチド模倣体は、化学文献および特許文献、たとえば、Organic Syntheses Collective Volumes, Gilman et al. (Eds.) John Wiley & Sons, Inc., NY, al-Obeidi (1998) Mol. Biotechnol. 9:205-223; Hruby (1997) Curr. Opin. Chem. Biol. 1:114-119; Ostergaard (1997) Mol. Divers. 3:17-27; Ostresh (1996) Methods Enzymol. 267:220-234に記載されている種々の手順および方法を用いて合成することが可能である。融合ペプチドまたは好ましい他のものとして内在化ペプチドに結合したペプチドまたはペプチド模倣体には、全部で50個以下のアミノ酸を、より好ましくは25個以下または20個以下のアミノ酸を含有する。